



2021年 JAF 東日本ラリー選手権第4戦 / JMRC 関東ラリーカップ 群馬ラリーシリーズ第2戦
MSCCラリー in MIKABO

公式通知 No. 4

発行日時 ; 2021年 5月 15日 9:00	文書番号 ; 1. 0 4
宛 先 ; 全参加者	ページ数 ; 3
発行者 ; 競技長	添付資料 ; JMRC 関東統一規則 追加条項
発行内容 : ドライバースブリーフィング資料	

【注意事項】

※このブリーフィング資料の配布をもって、「ドライバースブリーフィング」を行った事とします。
不明な点等ありましたら、CRO を通じてご確認ください。

- 1) ロードブックの『Information』欄に記載されている事項について注意する事。
- 2) 暴走行為は慎んでください。暴走行為の確認ができた場合は、審査委員会よりペナルティーを与える場合があります。
- 3) 本競技会では、緊急時の乗員クルーの安全を確保する目的でラリー管制システム（ラリーストリーム）を導入しています。
各自スマートフォン等にダウンロードするのを忘れないようにしてください。
レッキ時からの運用にご協力をお願いいたします
- 4) P33-Box42 Refuel ですが、反対車線側からの進入になります
一般の方に迷惑の掛からないよう待機車両の列の長さ等配慮願います。
- 4) ガソリンスタンドはセルフ式のスタンドです。
ゴミなど置いていかぬよう、良識のある対応をお願いいたします。
給油完了後はおしゃべりなどせず、速やかに移動をお願いいたします。
- 5) 今回のラリーはサービスの設定はありません。
競技車両停車エリアは、コミュニケーション No.3 をご確認ください。
停車エリアは大変狭い為、荷物を置いたままにしないでください。
各自、体育館内に荷物等を置いておくようお願いいたします。
なお貴重品等は置いていかないよう、自己管理をお願いいたします。
ゴール会場付近の道路での路上駐車は、近隣の皆様のご迷惑になるので駐車厳禁です。
- 6) ヘルメットは各 SS スタートラインにつく前に着用を完了している事。
- 7) シートベルトについてもリエゾンを含め、各 SS スタートラインにつく前に装着を完了しておく事。
- 8) 各コントロールでの計時の手順については、コミュニケーション No.1 をご確認ください。
- 9) SS 内、リエゾンも含め、後続車の走行を妨げた場合は、当該 TC で必ずその旨申告をする事。
また、自車の走行を妨げられた場合も当該 TC でその旨申告をする事。
- 10) TC4A は早着 OK です。遅着についてはペナルティーの対象となります。
- 11) ロードブック綴込み内容について、表紙裏面記載の「目次」を見て、落丁等ないか確認をする事。
- 12) 連絡先
競技長 後藤 茂行 090-3139-0923 事務局長 西井 敏則 090-7202-0057
CRO 宮城 孝仁 090-2662-4711
SS1/3 SS Mikabo-Short ステージコマンダー 丸山 高康 090-1114-6994
SS2/4 SS Mikabo-Long ステージコマンダー 高野 啓嗣 090-3085-2071



【スペシャルステージ上での停止、スペシャルステージの中断における選手の対応について】
※添付資料の「JMRC 関東統一規則 追加条項」についても履行するようお願いいたします。

● **スペシャルステージ(SS)でトラブルなどやむを得ず停止、またはコースアウトした場合**

- ・車両が停止したら、自分が止まっていることを後続に知らせるために必ず三角停止板を少なくとも 50m 以上後方の停止している側に立てる。停止車両がコース外にあったとしても、三角停止板を設置すること。
 - ・車両トラブル、バースト、パンク等でコース上または枝道等であっても三角停止板を設置すること。
 - ・三角停止板はコーナーではなくストレート上で後続車の確認しやすい場所に提示する。
 - ・三角停止板を設置しなかった場合はペナルティーの対象となる。
 - ・後続車両が三角停止板をはじめてしまったとしても後続車両側の問題であり、だから三角停止板を出さなくていいというわけではない。三角停止板をはじいた車両が発覚した場合はペナルティーの対象となる。
- また、三角停止板が設置提示された状態にて止まっている競技車両に追突等した場合はペナルティーの対象となる。

● **SOS/OK サイン**

- ・SOS/OK サインはクルーの救急医療処置が必要かどうか又は車輛の消火作業が必要かどうかを伝えるものであり、後続車両を停止させるためのサインでない。
- ・SOS サインの提示されたクルー、もしくは SOS サインは提示していないが重大な事故でクルーが車内にとどまっていることが明らかである車両を発見したクルーは例外なく援助するために直ちに停止しなければならない。その他の後続の車両も停止し事故現場に 2 番目に到着した車両は事故のことを知らせるために次のラジオポイントまで行くこと。又後続の車両は緊急車両が通るために道を開けなければならない。

● **スペシャルステージ(SS)でコースをふさいだ場合、ふさがれた場合**

- ・競技車両がコースをふさいだ場合でも、当該選手が後続車を停止させることラリー競技を中断させることはできない。通過できるかできないかはあくまで後続の選手が判断すべきことである。どう考えても危険な状況の場合は、三角停止板を提示したうえでスピードを落とすよう全力でアピールするなどして対応する。
 - ・通れないと判断した後続クルーは、後続車に対し三角停止板を設置し、競技を続行するためにコースをふさいだ停止車両の排除に努力しなければならない。競技進行のために停止車両を排除することは許される。ラリーを続行するために後続車に十分注意し排除作業を積極的に行うこと。
 - ・停止車両の排除に努力し停止せざるをえなかった選手に対しては必ず救済処置が施される。救済タイムとしてコースをふさいだ車両の前に記録されたタイムの中で適正と思われるタイムが与えられる。
- 与えられた救済タイムに妥当性がない場合クルーは根拠を示し競技長に伝える。ただし、救済タイムの決定はあくまで競技会審査委員会による。

● **イエローフラッグ**

- ・SS コース上にて、アクシデントや行方不明車両などが発生した場合、FIV が出動する段階ですぐにイエローフラッグが提示される。
- ・SOS のサインが提示された場所または不明車両が通過しなかった場所より手前の各ラジオポイント(トラッキング)においてイエローフラッグが振動提示される。SS スタートではフラッグではなく口頭で指示される。
- ・イエローフラッグが提示されていることを確認した時点でドライバーは直ちに、停止が必要な場合にも対応できるよう速度を落とし、そのスピードをスペシャルステージの終りまで維持しなければならない。また、マーシャルの指示に従わなければならない。



- ・イエローフラッグの規則に従わなかった場合はペナルティーの対象となる。
- ・イエローフラッグの提示を受けた選手は必ず救済を受けられる。
- ・イエローフラッグが出された状態で走る際も SS 中なのでヘルメットを脱いではならない。ヘルメットを脱いでいた場合、シートベルトを外していた場合はペナルティーの対象となる。

【救急】

1. リエゾン区間において、救急要請を行う必要があった場合は、各エントラントから 110 番、119 番に直接通報のこと。対処後 HQ 競技長、または事務局へ文書で報告書を提出されたい。報告事項 = 救急依頼事項（カーナンバー・対象者・依頼内容）、救急隊所属消防署、搬送病院、病院対処後の処置（入院・治療のみ等）
2. SS 区間内での救急発動は、FIV ドクターの判断により主催者が要請する。
3. SS 内コースアウト等による医療対応及びコースクリアーを迅速に行うため、直近の競技車両がコース内に停車していた場合は、可能な限りストップ地点のマーシャルに事故の状況報告をすること。
☆OK マークの有無、カーナンバー、停車地点、コース状況等可能な範囲でお願いします。もちろん SOS が出ていた場合は、必ず停車し救助を行ってください。
4. 病院等で救急外来を受診する際に適切な対応を受けられるよう、健康保険証を携帯しておく事。また、受診の際は事前に病院へ電話連絡をした上で受診する事を強く推奨します。

【事務局】

夕食配布場所について

15日(土)の夕食（お弁当）は体育館駐車場内HQにて16：00よりお渡しします。

表彰式について

表彰式は行わないが公式通知No.3の賞典対象クルーは、正式結果発表後にHQに集合すること。体育館内で賞品授与と写真撮影を実施します。

競技会審査委員会（署名）

小口貴久；

高桑春雄；

2021年5月15日 8時30分

MSCCラリー in MIKABO
競技長

後藤茂行；

2021年5月15日 8時20分

関東統一規則 追加条項

J M R C 関東統一規則 第 1 8 条 競技クルーの安全について、以下の条文を 1 0 項以降に追加する。

本競技会では、SS ラリー開催規定 第 2 5 条スペシャルステージ 15.競技クルーの安全に下記の条項を 1 0 項以降に追加する。

11) SS ラリー開催規定 2 5 条 1 5 . 8 について下線部を追記する。

8) 救急医療措置が必要な場合もしくは消火が必要な場合は赤色の「SOS」ページを提示すること。これが提示されていた場合、後続車は下記の手順に従う。また「OK」「SOS」のどちらの提示もなく、車両がかなりのダメージを負っていてクルーが車両内及び車両の外にいると思われる場合も同様の手順に従うこと。(以下略)

12) 上記いずれかの状況で OK/SOS ボードを提示することが可能ではない場合、車の外でクルーによって示される明らかで明確に理解できるジェスチャーで代替することができる：



- 腕を上げ、親指を立てて示す“OK”
- 頭の上で腕を交差して示す“SOS”

13) OK マークは 4 台目以降の後続車へも明確に提示すること

14) 救助に当たる場合、少なくともクルーの 1 人は後続車への告知対応を行うこと